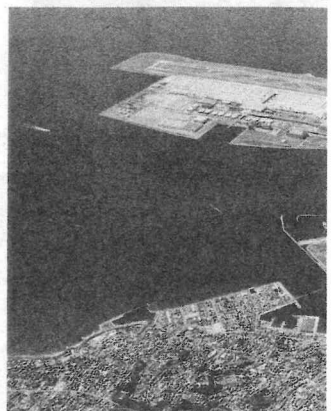


中部空港



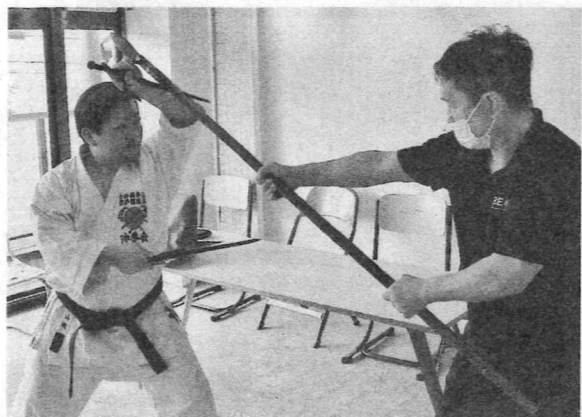
の企業も誘致する計画で、近未来のまちづくりに挑む。愛知県は、エリアでのデジタル技術の正式5Gを活用したデジタル技術で近未来の街をつくる中部国際空港島（写真上）と、対岸のりんくう町（下）

ワンチームで水素事業

福島・矢吹町の8社がWG 部品生産など検討

【福島】福島県矢吹町の企業8社は水素関連産業への進出を目指す「チームやぶぎ・水素関連産業新規参入ワーキンググループ」を結成した。エネルギー・エージェンシーふくしま（福島県郡山市）のワーキンググループとして、水素関連製品受注や部品・組み立てに着手した。矢吹町の大和三光製作所（熱処理・乾燥機）未来制御（自動制御設計・製作）、藤井製作所（コンプレッサー・空調機部品）、佐藤フレイズ（医療、光学など精密部品）など8社。チームの共同代表は大和三光製作所の単品、部品から生産を始めるなど具体的な水素関連設備の製作を詰める。水素関連の部品、組み立て、据え付け、メンテナンスまでを一貫して行う事業展開が目標。福島県はカーボンゼロの達成に向けて水素エネルギーの普及を柱にしており、水素関連産業への期待は大きい。チームやぶぎは今後の毎月会合を開き、水素発生装置を最終ターゲットにまずはムで製造できる体制づくりに目指す。

沖繩の武器 京の2社が完成



将大鍛刀場 依頼に応え技術結集

ナンゴウ（京都府宇治市、を製作した。2016年に、将大鍛刀場が組み立て南郷真社長）は日本刀を手始まった、京都府内のモノづくりで完成した。市、中西裕也刀匠と共同、ナンゴウが切削加工した部品本1組で使用し、中央の棒の先端が尖っており、刺突・打撃での攻撃を想定したつくり。三つ又で相手の武器を締め取るなど防衛用途でも使用可能で、1600年頃から沖繩の古武術で



山城師範（左）による演武。鉞は三つ又で相手の武器を締め取るなど防衛用途でも使用できる（左から）南郷社長、中西刀匠、山城師範。写真中央が鉞。沖繩の古武術で使用される。

因島鉄工が補助具製作

因島高校・因島医師会病院と 地域貢献で共同プロ



【福山】因島鉄工 秀樹社長は、広島県（広島県尾道市、宮地 立因島高等学校同）、因島医師会病院（同）と共に、日常の生活や動作に支障がある患者の生活の質の向上につながる補助具などを開発するプロジェクトを始めた。同校の生徒のアイデアをベースに、2023年3月までに開発し同院に寄贈する。将来は因島鉄工での事業化も視野に入れる。「因ノベーション」プロジェクトの名前で実施する。同校の生徒が病院での通所リハビリテーション（デイケア）の様子を視察・体験するなどしてアイデアを出し、補助具を試作。病院の患者や療法士の意見を取り入れて改良し、23年3月までに開発に結びつける。このたび、同校3年生の生徒3人が参加し、第1回のミーティングを開催、リハビリの様子などを見学した（写真）。因島鉄工は地域貢献

「文化を残す」古武術師範、販売も計画

利用されてきた。鉞の製作者は沖繩県内でも減少しつつあり、使用者である沖繩拳法空手道6代目師範の山城美智氏は、長年製作できる技術者を探していた。京都在住の弟子を通じて、ナンゴウと将大鍛刀場に製作を依頼した。約8カ月かけて完成した鉞は、鋼製で長さは約49センチ、重さが約800グラム。ナンゴウの南郷社長は「長く細いものの加工は、芯がブレが起きるので難しかった」と振り返った。山城氏は「文化を残すために、道具を残すことは重要」と強調。引き続き2社の協力を仰ぎ、今回製作した鉞と同様のつくりで、原価を約2分の1に抑えたものを「本格派」の製品として一般販売する予定。（京都）

中小の脱炭素・DX支援

大阪府 公民連携組織と協力

大阪府は、中小企業 変革（DX）を支援するの脱炭素の取り組みを推進する。公民連携組織「OSAKAゼロカーボンファウンデーション」（大阪府中央区）と事業連携協定を結び、ゼロカーボンとスマートシティ（次世代環境都市）の推進に向けた取り組みで協力する。中小企業のデータ活用による二酸化炭素（CO2）排出量の見える化やエネルギー管理システムのデジタル環境整備につなげる。

東日本・西日本

REGIONAL ECONOMY